

Takashi AKIYAMA Poster Museum Nagaoka

2016-11-02

APM news 161

秋山孝ポスター美術館 長岡

歴史的建造物・金庫扉と雁木のある美術館 (旧北越銀行宮内支店)



〒940-1106 新潟県長岡市宮内2-10-8
TEL 0258-39-1233

日本ブックデザイン賞2016

作品展示および授賞式

展示期間: 9月4日(日)~9月24日(土)

授賞式: 9月10日(土)pm2:30~pm5:00/参加者: 99名



今年も「日本ブックデザイン賞 (JBD) 2016」を開催した。応募総数625点の内、厳選なる審査の結果決定した入賞・入選作品全265点を秋山孝ポスター美術館長岡 (APM) に於いて展示した。展示期間中の9月10日 (土) には、同会場にて授賞式も執り行った。今年も、出版社などから既に商業出版している本も応募対象に加えたことにより、展示内容が濃くなり、見応えのある展示となった。

授賞式では、まずAPM館長・審査委員長の秋山孝が開催主旨及び関係者への感謝を述べた。また、APMの建物が国の登録有形文化財に登録されたことを報告し、国から贈られたプレートを披露した。続いて、APM運営委員会会長・審査員の豊口協が挨拶をし、かつて戦災孤児収容所で母親の形見である本を大事に抱える少女との出会いの話から、本は人生の指針を与えるものであり、ブックデザインも然りであると語った。祝辞は、長岡市副市長・高見真二氏から、長岡市としてもこの活動を支援をしていきたいという心強いお言葉を頂戴した。また、今年も協賛いただいた北越紀州製紙株式会社社長岡工場長 谷口喜三雄氏からもご挨拶いただき、他にも多くの来賓、審査員、受賞者に出席いただいた。

賞状授与では、副賞として受賞者全員に作品集と長岡市発祥の米菓「元祖 柿の種」(浪花屋製菓)を贈与した。また、グランプリには賞金20万円が贈られ、受賞者はそれぞれ喜びを語った。一般の部 ブックデザイン・パブリッシング部門 銀の本賞を受賞した加藤勝也氏は、現在の日本ではブックデザインのコンペティションは数が少なく、地味な仕事ではあるが、このように評価される場がある事はとても嬉しいと語った。

式典の後は、懇親会を開き参加者間の交流を図った。長岡造形大学理事長 水流潤太郎氏は本には記憶を染みつかせる力があり、それはデザインの力でもあるという言葉で応募者へ激励の言葉を贈った。また、出席いただいた3名の審査員からは審査会の白熱した様子が語られ、厳しい審査の上選ばれた受賞者へ賛辞が述べられた。APM運営委員会副会長 牧野忠昌の乾杯の音頭で歓談はスタートし、地酒を片手に、参加者同士の交流は進んだ。

来賓の挨拶の中で度々登場したフレーズが「紙の本の持つ力」であった。近年では、電子書籍が登場し、「本」の形が多様化してきた。しかし、紙に印刷され製本した形こそ本の本来の姿であり、電子媒体には代え難い魅力と力を持っている。そして、そこには常にデザインが伴う。これからはJBDでは、本の持つ力・デザインの持つ力を発信し続け、新たな才能の発掘を目指していきたい。(たかだみつみ・APM事務局長)